

# 葡萄 (二)

大 岩 金

で短梢剪定をしますとどうしても長梢剪定と同様には収量がない様に考へられますが、實際の場合には其の木の一生を通算した収量にはたいした差はないものであります。即ち老樹になりますと短梢の方が次第に収量を増して來るとのことです。

そこで剪定の時の注意でありますが葡萄の梢は髓質でありますから切らうとする芽と次の芽との中間位の所を切る必要があります。あまり芽に接近して切斷致しますと其の芽は枯死するやうな結果になります。

又結果枝が強い場合には一芽から二——三本も

結果枝が出る事があります。かかる場合に放置しますと果實が小型となるのみならず翌年度の結果に影響しますから優良なもの一本を残して結實させる必要があります。又來年度の結果枝即ち豫備枝上に生ずる芽は全部摘除せねばなりません。然しあまり急に切斷しますと豫備芽が發芽します故先づ二芽が切つて後一芽摘とする必要があります。そうして豫備枝上の芽を充實させる必要があります。このやうにする摘心は要するに翌年度の芽を充實させる目的でありますと共にあまり密生するのを防いで病蟲害の豫防の目的とするのであります。

次に結果枝の剪定でありますが、是も放置しないで結果した所から三芽位の所から摘除して果實の方へ充分養を送るやうにします。そこで三芽から先に出た芽は一芽切りとするのであります。

摘果の方法（房に就ての摘除）是は果實の品質を優良ならしめるが目的であると共に房の型も整へねばなりません。又斯如する爲に反つて收量を増加するものでありますと共に成熟を一様にするものでありますから、あまり密生してゐる所、小形の粒は丁寧に除去するのであります。その結果翌年度の收量にも關係を生ずるものであります。尙摘果で注意を要する點はなるべく外部のものは保存して内部のもの摘除を主とせねば形を形を損する事があります。

輪狀剥皮。目的は成熟を早くし、糖分を増し、收量も増加するといふ有効なものであります。方法としては結果枝の基部又は中部等に巾半糧位で皮を剥ぎ取るのであります。即ちこれが爲に養分は上部のみが多くなつて果實を優良ならしめるの

であります。然し本年施行致しますと甚だしく樹勢を弱らせます爲に豫備枝を發生せぬ様になる事があります。でありますから樹勢の強いものでありませんと行はれないのであります。尙施行します時期は果實が大豆粒位になつた時であります。

柵作法。葡萄の柵作りは最も普通に見る方法であります。先づ一畝に一——二本位として、柵の高さは一・五米位として竹又は針金を用ひ十字に張るのでその密度は八〇糧四方位と致します。柵は竹の方が立派でありますが經濟的には針金の方が良いのであります。次に苗の定植であります。二——三芽に切つて植ゑ約二米位に成長してから摘心を始め冬期になつて一米餘りに切り、二年目に二芽をのばし他の芽（側芽）は一芽切に致します。これを冬期に半米位に切り三年目に右の二本から各二本を出し一米に到つて摘心し冬期に半米餘に切ります。で三年目で柵作りの型が出来上つた譯で最後の枝から種蔓を出して實を收めるのであります。そこで枝は前記の柵へ結び付けるの

であります。

段作法。栽植距離は二米四方と致します。

定植する苗は二、三芽に摘心したもので約二米に伸びた所で摘心します。側枝は摘除します。即ち幹から生ずるものは始め二芽後一芽摘にする事は前同様であります。冬期に六十糎位に切つて八——十二芽を有する二本の豫備枝を作ります。これにて一段作りの段作りは出来た譯で此の豫備枝は毎年作るのではありません。

二段、三段の作り方があります。段の距離は五十五糎位を普通と致します。で四年で二段が出来るのであります。只二段目を作りますには豫備枝を作ると共に今一本立てて三本立てる必要があります。その中央の一本は百三、四十糎伸ばしてから摘心します。次に冬になつてからは下の豫備枝から六十糎位で切つて二本の豫備枝を出す事は前者と同様にします。そこで注意を要します點は上方の豫備枝は強力でありますが下方の豫備枝は弱いものでありますから多少前者(八——十二芽)より短かく切る方が得策であります。

この調子で毎年一本の豫備枝を作つて結果させずに充分養成して豫備枝の基の方へ次年度の結果に給するのであります。この事は言はいと易い事でありますがどうもさう調子よくは枝が出ませないのでびつこの整枝に成り勝てありますから注意を要します。それで豫備枝は冬期剪定の時段の針金に弧形に結びつけるのであります。

この方法は前者の段作りより總べての點で具合が好しく便宜であります。

その他の整枝方法としては前同様二、三芽の苗を定植し六十——七十五糎位にして切り二本又は四本位の豫備枝を作つて中心に一本苗に沿つて柱を立てたものへ枝の數に従つてピラミッド型になる様に支柱を結びつけます。その支柱に前記の豫備枝を結びつけるのであります。このやうにして第二段を二——五芽の幹を置いて前同様の豫備枝を作り支柱をピラミッド型に結びつけるのであります。

その外コルドン式といつて短梢剪定で作るのなともあります。